

# “次の冬も大雪になる”という構えで準備することが重要



私は24日、大雪対策、公の施設の管理と運営で一般質問を展開しました。と言っても、再質問は大雪対策だけでほとんど時間を使いました。

大雪の問題は10月末までかけて、昨冬の対応について検証作業が進められています。私は、次の冬も大雪になるという構えで準備していくことが重要だとして、保育園での小型除雪機の配備、町内会への支援、除雪協力事業者の確保のを中心に村山市長や担当部長の考えをたどりました。

## 9保育園に除雪機配備へ

このなかで市は、市内の夷浜、やちほ、たにはま、南川、柿崎第一、柿崎第二、上下浜、はまっこ、まつかぜ保育園に小型除

雪機を配備する方向で検討していることを明らかにしました。これで、市内の38の市立保育園すべてに除雪機が入ることになります。導入時期については、「令和4年度の当初予算編成の中で反映することを基本とする。早期に対応すると判断した事業は、今冬に備えるための予算を確保すべきと考えている」とのべていましたので、私は、「今冬のような大雪は今後もあり得る」との立場で早期に予算措置を講じるべきだと訴えました。

## 大雪時の救助対象広げよ

また、災害救助法適用時の要援護世帯などへの除雪費助成（救助）対象について、「屋根雪、玄関前だけでなく、下ろした雪の処理や、道路の至る道、車庫なども冬場に生きていくうえで除雪が必要な場所だ」、「1世帯当たり13万7900円という上限額も低すぎる」「除雪の前と後に写真を撮りなさいというのも納得いかない」とのべ、厚労省に交渉するよう求めました。

村山市長は「写真ひとつとっても民生委員の確認でいいのではないかと訴えたが受け入れてもらえなかった。他のことも訴えても……」と答弁しました。私は

引き続き要請してほしいと訴えるとともに、日本共産党としても独自に厚生労働省に働きかけていくとのべました。大雪災害の救助については、厚労省はもっと現場を見て、被災者に寄り添ってほしいものです。

## 町内会の除雪機購入補助も急ぐべきだ

町内会への緊急的な道路除雪の支援制度については、「現在、具体的な内容や実施手順について検討を進めている」のことです。私からは、早急に決めてほしいと訴えました。また、町内会で小型除雪機を「導入検討」をしているところが71にもものぼっていることから、これも早期に予算対応できるようにしてほしいと訴えました。

小型除雪機の購入は昨年12月から大雪の経験を踏まえて購入希望が急速に増えていますので、急がないと次の冬までに購入できなくなる可能性があります。



【コウホネ】（再掲）スイレン科の水草。漢字で「河骨」と書きます。名前の由来は底泥中をほう白い地下茎が骨に似ているからという説があります。花期は6月～10月。吉川区小苗代の池に黄色の花を咲かせています。花言葉は「秘められた愛情」「その恋は危険」。写真は9月28日、撮影しました。

## 村山市長が議会で最後の挨拶



9月28日は村山市長にとっては最後の本会議となりました。

会議が終了した段階で市長は挨拶し、これまでの3期12年を振り返るとともに、政治論、人間論を語りました。

印象に残った言葉へ断片ですが、「一人称で語り続けることができただろうか」、「失敗の経験を評価する世の中であってほしい」、「多様性を認める共生の社会を」です。そして最後には「自分には謙虚であれ、他者には寛容であれ。人の話をにこやかに聴ける人間でありたい」とも。

市長とは敵対する場面も何度かありました。が、12年間、ご苦労様でした。イラストは最後の村山市長です。

# はしづめ法一の活動レポート

No.2030 2021.10.3

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第六七七回

### 墓参り

今年のお盆の墓参りほど天気を意識したことはありませんでした。八月二三日は朝からずっと雨が降り続いていたので、

いつ止むのか、そう思いながら空模様を見ていて、「今がチャンス」と判断したのは午後三時ごろでした。家の者を誘って出かけました。

これが当たりました。わが家の墓場は吉川区の山間部、尾神地内にあります。わが家から車で約一分です。現地に着いたとき、曇ってはいましたが、雨はぴたりとやんでいました。

ただ、わが家の墓場は少し高い位置にあります。風が東西から吹き上げてくることが多いのです。この日も、東からの風が少し吹いていて、ロウソクの火は点けてもすぐ消えてしまいました。私の体で風を防ぎ、ロウソクの炎を使って線香をたいたのですが、これにも苦労しました。

わが家の墓のそばには親戚の「井戸尻」（いどんしり・屋号）の墓があります。私たちが到着したときには、すでに墓参りを済ませてありました。そして、有り難いことに、わが家の墓のそばにも独自の花入れを用意し、花を付けてありました。たぶん、Hさんがお参りしてくださったのだと思います。Hさんに感謝しながら私たちもお参りを済ませました。

普段なら、これで墓参りは終わりになるのですが、この後、当初頭になかったことをすることになりました。雨が降らないうちに家に帰ろうと車に乗り込もうとしたとき、突然、私の足が止まったのです。

じつはこのとき、愛知県稲沢市在住の弟のことを急に思い出して、「そうだ、ツトム顔をじいちゃんやとちゃんなどにも見てもらおう」と思ったのです。

墓場に戻り、弟のところにスマートフォンを使ってテレビ電話をすると、弟は自分の店で商売中でした。カラオケの音が聞こえてきました。

弟は電話に出ると、すぐ、「墓参りしているのか」と訊（き）いてきました。わが家の墓が見えたのだと思います。

「そいごと、おまんも墓に、手、合わせてくんない」

「……」  
お店の音で私の言葉がどうも聞こえなかったようです。もう一度、大きな声で言いました。  
「手、合わせてくんない。じちゃんもちゃんもマコも喜ぶすけ」

二度目の呼びかけは弟に伝わり、スマートフォン画面では、弟がお参りしている姿が目に入りました。

墓に入っている祖父音治郎や父などこの様子が伝わったかどうかはわかりませんが、でも、私には何となく伝わったなと思えました。証拠はまったくなくないので、その場にいた人間として、父たちが喜んでる雰囲気を感じ取ったのです。

その瞬間、込み上げてくるものがあって、私の頬は濡れました。現実には起こり得ないことですが、もう何年も逢わなかった父や祖父などと一緒になれた気がしたのです。不思議なものです。

稲沢市在住の弟は新型コロナウイルスの影響から、二年近く帰省できない状態が続いています。私はスマートフォンを使って、時どき、テレビ電話するなかで母の顔を弟に見せてきました。その積み重ねが今回の行動につながったのだと思います。

弟は、スマートフォンで墓参りをしたあと、「きょうはオレの誕生日なんだ」と言いました。「そうだったね、おまんの誕生日だったもんね」と言ったものの、私はすっかり忘れていました。弟にテレビ電話で墓参りをしてもらい、弟の誕生日を久しぶりに確認したことで、今年のお盆の墓参りは忘れられないものになりました。

## 県生態研究会が小苗代池でオニバス調査

先週の土曜日（9月25日）、吉川区小苗代地内の池で新潟県生態研究会のメンバーの皆さんがオニバスの生育調査をされました。

私も毎年、オニバスが出るかどうかに関心を持って見ているのですが、今年はずっと姿を見せませんでした。調査にあたったみなさんは舟やドローンを用意し調査活動を

されていましたが、事務局長さんから名刺をいただいてびっくりしました。私の知っているFさんだったのです。Fさんは、数年前、私が教育委員会に頼んで、城東中学校で行われていたスーパーティーチャー（吉川区片田出身のYさん）の授業を視察していたこともございでした。世間は狭いと改めて思いましたね。

メンバーの皆さんによると、今年は大潟区の朝日池でもオニバスが見られるとのことでした。



## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月22日(水)	9月29日(水)
上越南消防署	0.050	0.053
上越北消防署	0.040	0.040
新井消防署	0.053	0.053
頸北消防署	0.050	0.047
頸南消防署	0.057	0.060
東頸消防署	0.050	0.047
名立分遣所	0.053	0.067
高士分遣所	0.053	0.053